

マクニカ・富士エレ ホールディングス株式会社 平成29年3月期第2四半期 決算説明会資料（プレゼン編）

2016年10月31日

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

第一部

Ⅰ 2017年3月期上期実績（連結）

Ⅱ 2017年3月期予想（連結）

Ⅲ 株主還元

第二部

Ⅰ 中期経営計画（2016～2018年度）

※企業結合に関する会計基準に基づき、前連結会計年度は、株式会社マクニカについては2015年4月1日から2016年3月31日まで（12ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2016年3月31日まで（13ヶ月）の連結業績を連結しております。

※前第2四半期連結累計期間の実績は、株式会社マクニカは2015年4月1日から2015年9月30日まで（6ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2015年9月30日まで（7ヶ月）の連結業績を連結しており、当第2四半期連結累計期間とは比較対象期間が異っております。

第一部

I 2017年3月期上期実績（連結）

II 2017年3月期予想（連結）

III 株主還元

第二部

I 中期経営計画（2016～2018年度）

I 2017年3月期上期実績

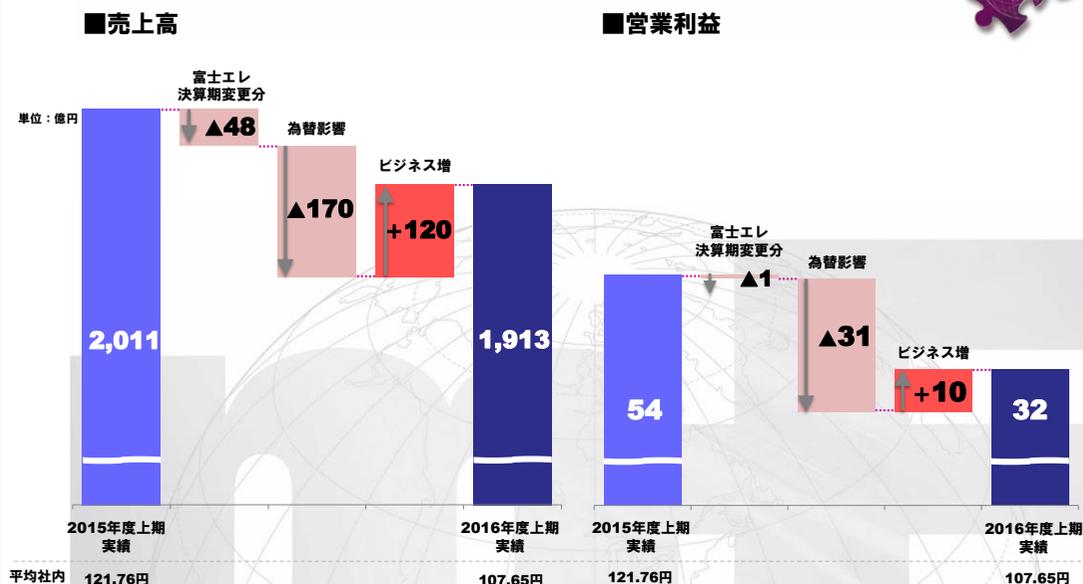
連結業績ハイライト（前年同期比）

| （単位：億円） | 2015年度 上期実績※ | 2016年度 上期実績※ | 差異 | 前年同期比 | 増減要因 |
|-----------------|-----------------|-----------------|-----|--------|--------------------------------|
| 売上高 | 2,011 | 1,913 | ▲98 | ▲4.9% | 円高及び富士エレクトロニクスの連結会計期間変更の影響等 |
| 売上総利益 | 228 | 207 | ▲21 | ▲9.0% | 急激な円高の影響による米ドル建販売と米ドル建仕入値引の目減り |
| 営業利益 | 54 | 32 | ▲22 | ▲40.4% | 売上総利益率の低下による |
| 経常利益 | 57 | 40 | ▲17 | ▲30.8% | 外貨建債権債務の決済等により8億円の為替差益が発生 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 56 | 26 | ▲30 | ▲52.8% | 前年同四半期に負ののれん発生益17億円を計上 |

※企業結合に関する会計基準に基づき、前連結会計年度は、株式会社マクニカについては2015年4月1日から2016年3月31日まで（12ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2016年3月31日まで（13ヶ月）の連結業績を連結しております。
 ※前第2四半期連結累計期間の実績は、株式会社マクニカは2015年4月1日から2015年9月30日まで（6ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2015年9月30日まで（7ヶ月）の連結業績を連結しており、当第2四半期連結累計期間とは比較対象期間が異っております。

I 2017年3月期上期実績

増減要因（前年同期比）



I 2017年3月期上期実績

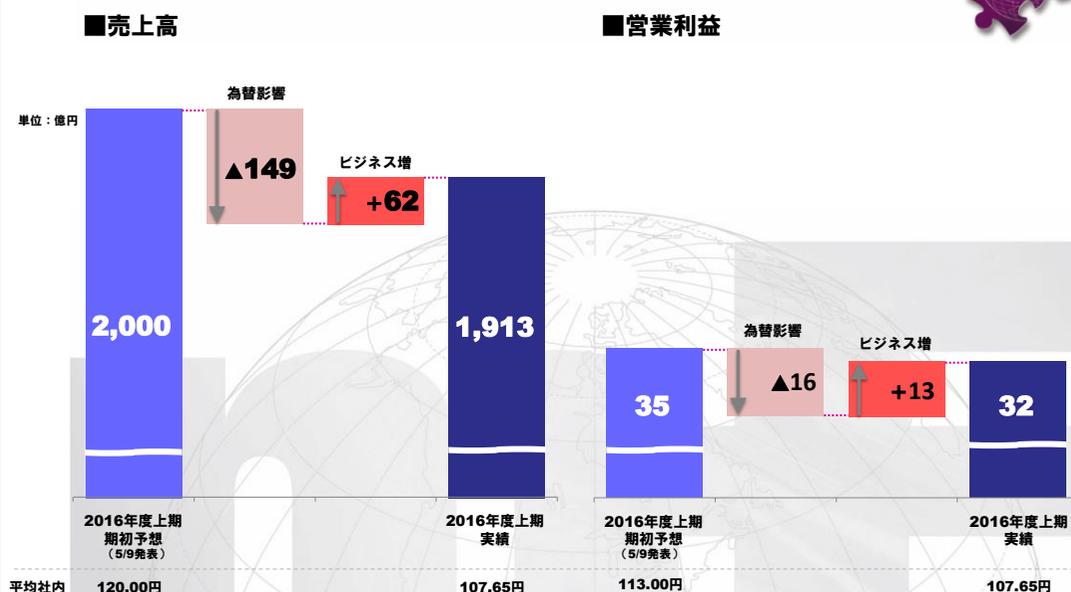
連結業績ハイライト（予想比）

| （単位：億円） | 2016年度 上期予想 (5/9発表) | 2016年度 上期実績* | 差異 | 予想比 |
|---------------------|---------------------------|-----------------|-----|-------|
| 売上高 | 2,000 | 1,913 | ▲87 | ▲4.3% |
| 売上総利益 | 217 | 207 | ▲10 | ▲4.5% |
| 営業利益 | 35 | 32 | ▲3 | ▲8.0% |
| 経常利益 | 34 | 40 | 6 | 16.2% |
| 親会社株主に帰属 する当期純利益 | 23 | 26 | 3 | 14.3% |

※企業結合に関する会計基準に基づき、前連結会計年度は、株式会社マクニカについては2015年4月1日から2016年3月31日まで（12ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2016年3月31日まで（13ヶ月）の連結業績を連結しております。
 ※前第2四半期連結累計期間の実績は、株式会社マクニカは2015年4月1日から2015年9月30日まで（6ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2015年9月30日まで（7ヶ月）の連結業績を連結しており、当第2四半期連結累計期間とは比較対象期間が異なっております。

I 2017年3月期上期実績

増減要因（予想比）



I 2017年3月期上期実績

連結貸借対照表

| (単位：億円) | 2016年 3月末 | 2016年 9月末 | 主な要因 |
|---------|--------------|--------------|---|
| 流動資産 | 1,869 | 1,855 | 現金及び預金が17億円増加したものの、売上債権が15億円、商品が17億円減少 |
| 固定資産 | 143 | 148 | 子会社の新規連結に伴い、無形固定資産が増加 |
| 資産合計 | 2,012 | 2,004 | |
| 流動負債 | 794 | 845 | 仕入債務が133億円減少したものの、短期借入金が130億円、その他が54億円増加 |
| 固定負債 | 141 | 123 | 長期借入金が19億円減少 |
| 負債合計 | 936 | 968 | |
| 純資産合計 | 1,076 | 1,036 | 為替換算調整勘定が33億円減少、自己株式が4億円増加、期末配当金24億円等により利益剰余金が2億円減少 |
| 負債純資産合計 | 2,012 | 2,004 | |

※企業結合に関する会計基準に基づき、前連結会計年度は、株式会社マクニカについては2015年4月1日から2016年3月31日まで（12ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2016年3月31日まで（13ヶ月）の連結業績を連結しております。

※前第2四半期連結累計期間の実績は、株式会社マクニカは2015年4月1日から2015年9月30日まで（6ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2015年9月30日まで（7ヶ月）の連結業績を連結しており、当第2四半期連結累計期間とは比較対象期間が異っております。

I 2017年3月期上期実績

連結キャッシュ・フロー計算書

| (単位：億円) | 2015度 上期※ | 2016度 上期※ | 主な要因 |
|----------------------|--------------|--------------|--|
| 営業活動による キャッシュ・フロー | ▲13 | ▲43 | 税金等調整前四半期純利益40億円及び売上債権の減少があったものの、仕入債務の減少及び法人税等の支払いの減少によるもの |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | ▲12 | ▲8 | 有形・無形固定資産の取得に伴う支出によるもの |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | 46 | 66 | 配当金の支払い及び長期借入金の返済による支出があったものの、短期借入金の純増があったことによるもの |
| 現金及び現金同等物の 期末残高 | 230 | 225 | 前連結会計年度末の207億円に比べ18億円増加 |

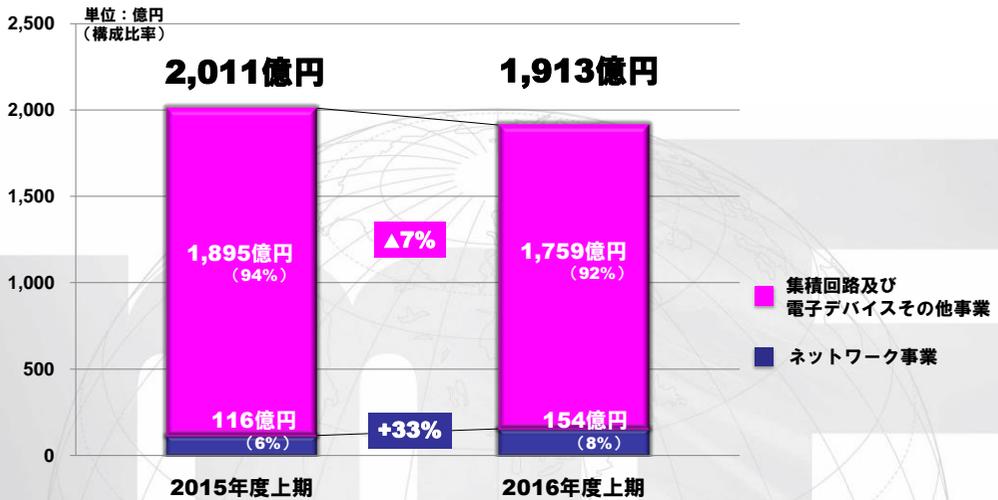
※企業結合に関する会計基準に基づき、前連結会計年度は、株式会社マクニカについては2015年4月1日から2016年3月31日まで（12ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2016年3月31日まで（13ヶ月）の連結業績を連結しております。

※前第2四半期連結累計期間の実績は、株式会社マクニカは2015年4月1日から2015年9月30日まで（6ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2015年9月30日まで（7ヶ月）の連結業績を連結しており、当第2四半期連結累計期間とは比較対象期間が異っております。

I 2017年3月期上期実績

セグメント別：連結売上高

1,913億円 前年同期比▲4.9%



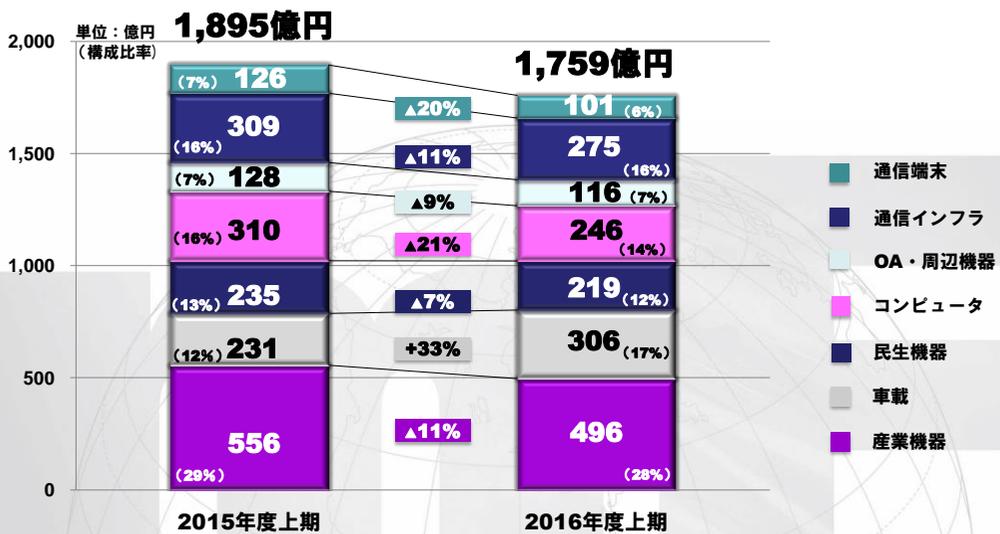
mf Macnica Fuji Electronics

11

I 2017年3月期上期実績

集積回路及び電子デバイスその他事業（用途別）

1,759億円 前年同期比▲7.2%



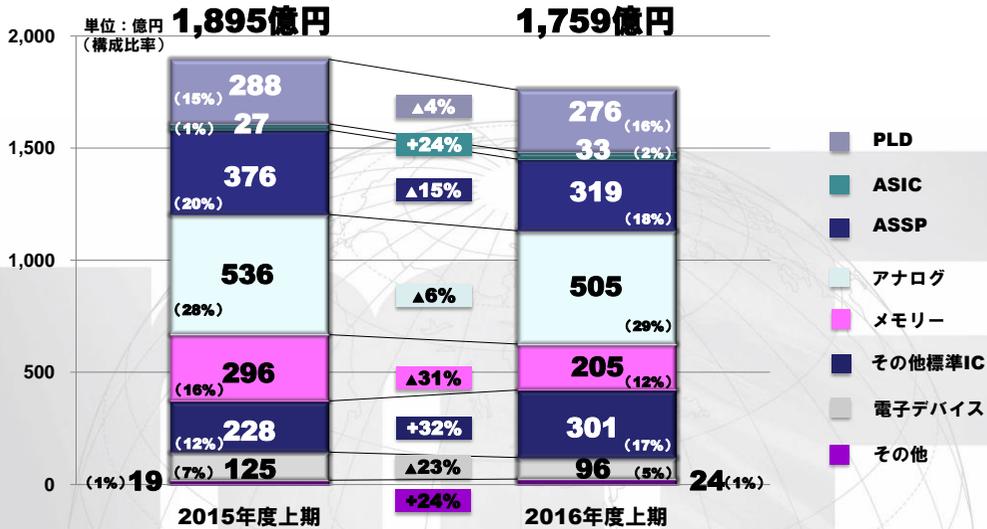
mf Macnica Fuji Electronics

12

I 2017年3月期上期実績

集積回路及び電子デバイスその他事業（品目別）

1,759億円 前年同期▲7.2%



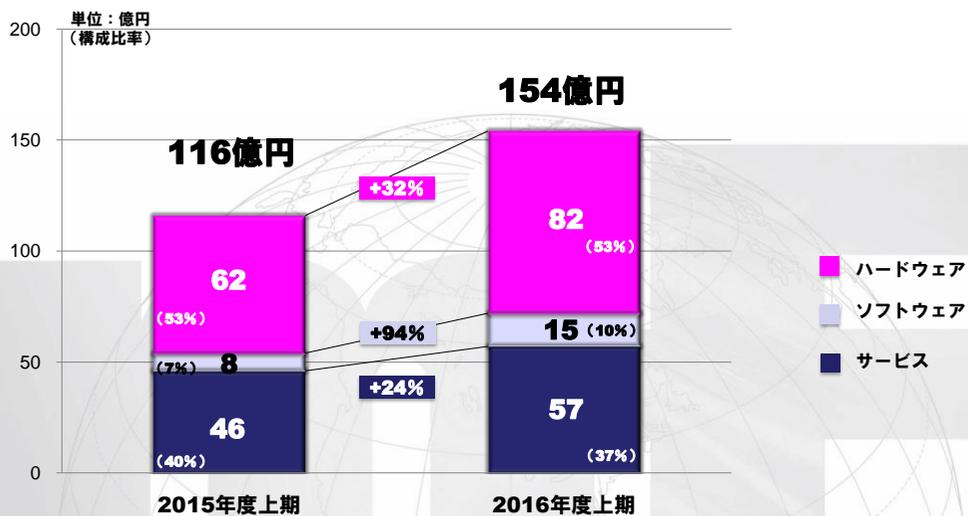
mf Macnica Fuji Electronics

13

I 2017年3月期上期実績

ネットワーク事業（品目別）

154億円 前年比+33.2%



mf Macnica Fuji Electronics

14

第一部

I 2017年3月期上期実績（連結）

II 2017年3月期予想（連結）

III 株主還元

第二部

I 中期経営計画（2016～2018年度）

II 2017年3月期予想

連結予想ハイライト

| （単位：億円） | 2015年度 実績※ | 2016年度 | | | 前年比 |
|---------------------|---------------|--------|-------|-------|--------|
| | | 上期実績※ | 下期予想 | 通期予想※ | |
| 売上高 | 4,053 | 1,913 | 1,787 | 3,700 | ▲8.7% |
| 売上総利益 | 443 | 207 | 212 | 419 | ▲5.4% |
| 営業利益 | 97 | 32 | 38 | 70 | ▲28.1% |
| 経常利益 | 102 | 40 | 38 | 78 | ▲23.4% |
| 親会社株主に帰属 する当期純利益 | 73 | 26 | 23 | 49 | ▲32.7% |

※企業結合に関する会計基準に基づき、前連結会計年度は、株式会社マクニカについては2015年4月1日から2016年3月31日まで（12ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2016年3月31日まで（13ヶ月）の連結業績を連結しております。

※前第2四半期連結累計期間の実績は、株式会社マクニカは2015年4月1日から2015年9月30日まで（6ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2015年9月30日まで（7ヶ月）の連結業績を連結しており、当第2四半期連結累計期間とは比較対象期間が異っております。

※2016年10月31日に2017年3月期通期予想の修正を発表しました。

集積回路及び電子デバイスその他事業



景気は不透明感が強く、半導体市場は弱含み。

- 携帯端末は、引き続き低調に推移。
- コンピュータは、サーバー・ストレージ市場向け大型案件の終息により減少。
- 産業機器は、一部製造装置などに持ち直しがみられるものの引き続き不透明。
- 通信インフラは、国内キャリア向けなどに微増。
- 車載は、好調を持続する見通し。



ネットワーク事業



セキュリティ市場は引き続き拡大傾向。

- 標的型攻撃に対応する高度なセキュリティ関連商品が拡大。
- インシデントログ解析などのセキュリティ市場向けソフトウェアも伸長。
- 大型案件の増加に伴い、保守サービスも堅調に推移する見通し。



第一部

I 2016年3月期上期実績（連結）

II 2017年3月期下期予想（連結）

III 株主還元

第二部

I 中期経営計画（2016～2018年度）

19

III 株主還元

① 配当予想

配当の基本方針は、将来の事業展開と経営体質の一層の充実・強化のために必要な内部留保を確保するとともに、株主の皆様に対し極力利益を還元すること、諸般の情勢を勘案しつつも安定した配当の継続に努めることと致します。毎事業年度における配当の回数についての基本的な方針は、中間配当並びに期末配当の年2回を原則とします。以上の方針に基づき、当期の配当金は、それぞれ1株当たり17円50銭、年間35円を予定しております。

| | 年間配当金 | | |
|--------------|--------|-------|-------|
| | 第2四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2016年3月期※ | — | 40.00 | 40.00 |
| 2017年3月期 | 17.50 | | |
| 2017年3月期（予想） | | 17.50 | 35.00 |

※ 2016年3月期末配当金の内訳は、普通配当35円00銭、記念配当5円00銭です。また初年度につき、期末日を基準とした年1回の配当としました。

② 自己株式取得

■ 取得理由

株主への利益還元及び資本効率の向上とともに今後の経営環境の変化等に対応した機動的な資本政策の遂行を図るため、自己株式の取得を行うものであります。

■ 取得に係る事項の内容

- | | | |
|-----|------------|---|
| (1) | 取得対象株式の種類 | 当社普通株式 |
| (2) | 取得し得る株式の総数 | 4,000,000株（上限） （発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合6.88%） |
| (3) | 株式の取得価額の総額 | 5,000,000,000円（上限） |
| (4) | 取得期間 | 平成28年11月1日から平成29年3月31日 |
| (5) | 取得方法 | 東京証券取引所における市場買付 |

第一部

I 2016年3月期上期実績（連結）

II 2017年3月期予想（連結）

III 株主還元

第二部

I 中期経営計画（2016～2018年度）

経営環境

前例のない規模で半導体メーカーの合併が進行
半導体事業の環境変化が加速

成長に向けた事業ポートフォリオの強化

| | |
|----------|--|
| 半導体事業 | マーケットシェアの拡大、ソリューション販売の強化と効率化の追求により、着実な利益成長を目指す |
| ネットワーク事業 | プロダクトポートフォリオの拡充により安定的に高い成長を目指す |
| 新規事業 | 経営資源の積極的な投入により、早期事業化を目指す |

中期経営計画

成長の追求による優位ポジションの確立

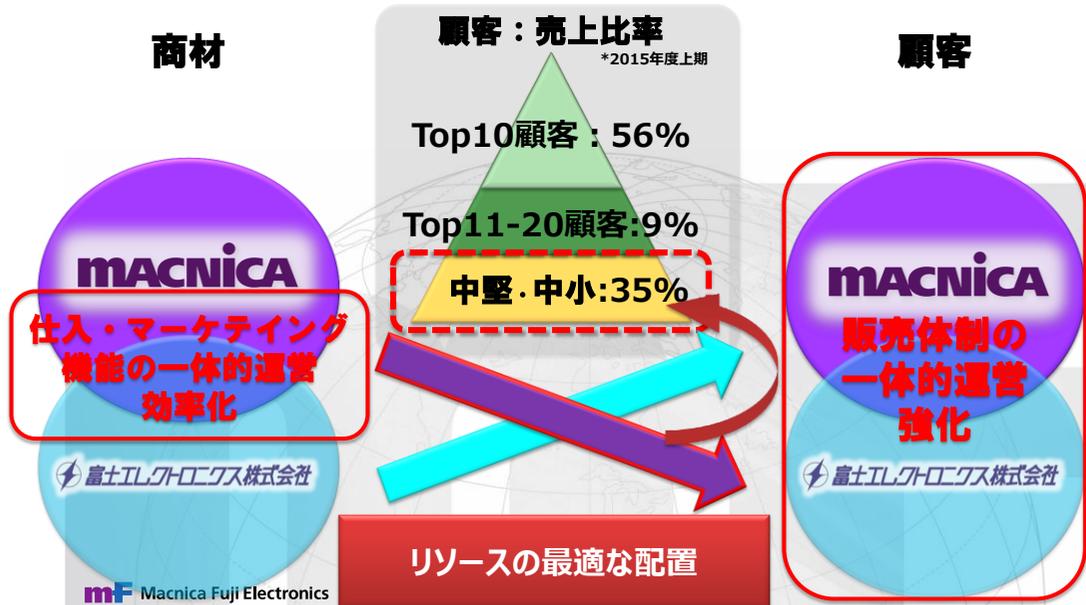
1 成長戦略

- ① 統合効果によるシェア拡大
- ② グローバル戦略の強化
- ③ ネットワーク事業の強化
- ④ 成長加速の施策

2 中期経営目標

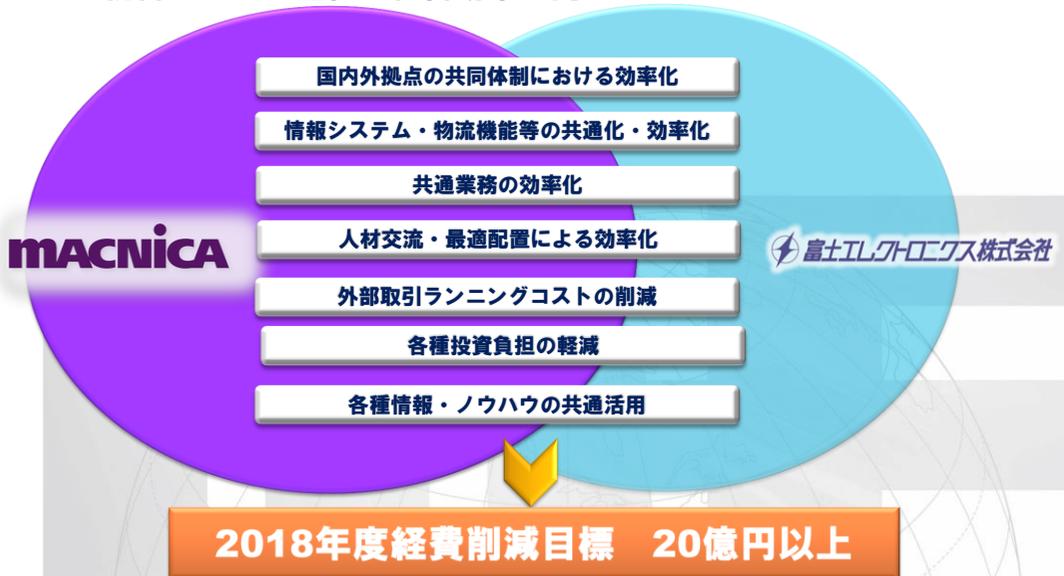
1 成長戦略：①統合効果によるシェア拡大

■ 統合効果のキーとなるクロスセル戦略の加速

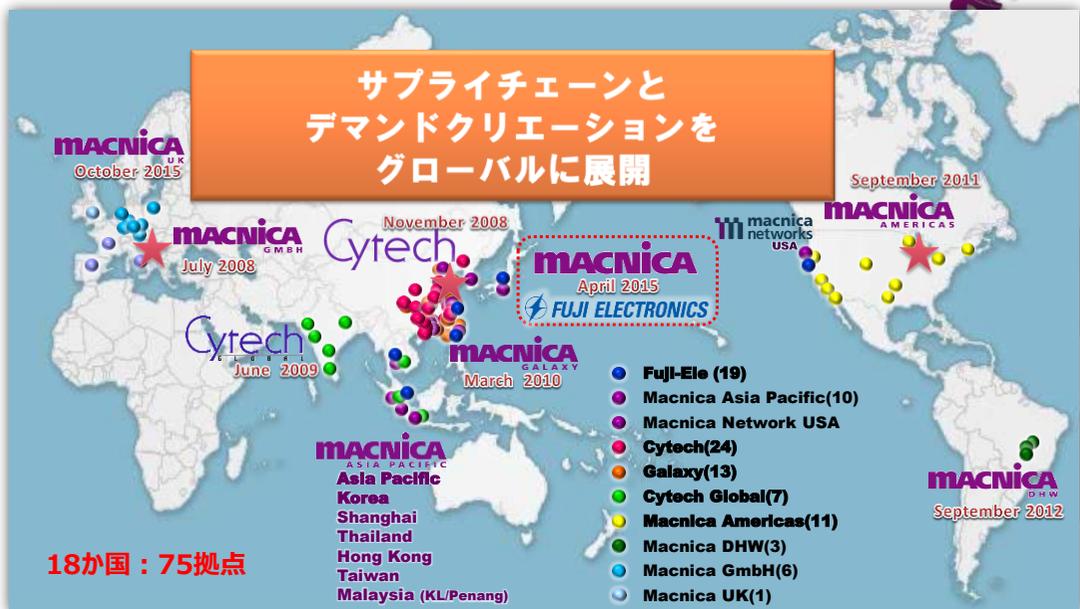


1 成長戦略：①統合効果によるシェア拡大

■ 統合による生産性・経営効率の向上

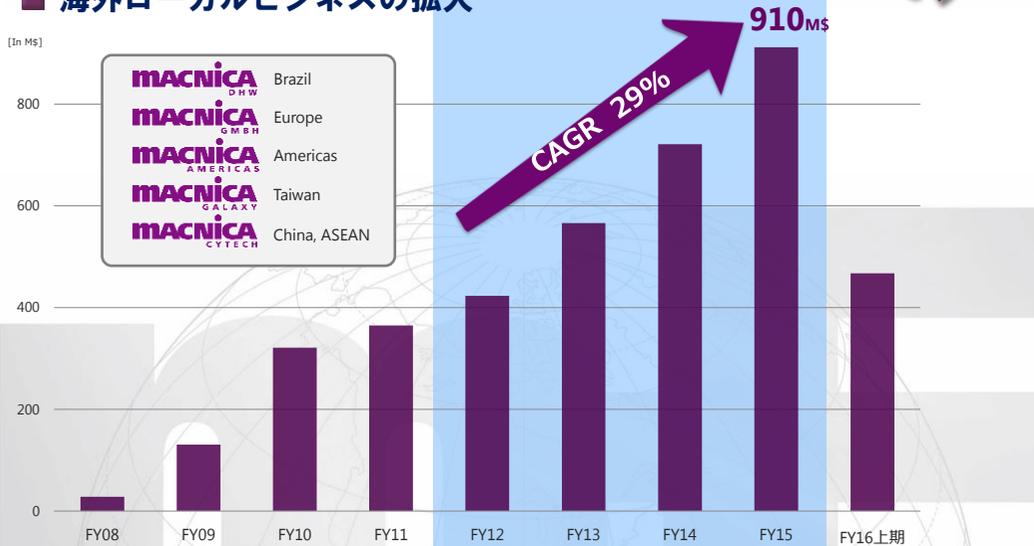


1 成長戦略：②グローバル戦略の強化



1 成長戦略：②グローバル戦略の強化

海外ローカルビジネスの拡大



海外子会社売上推移（US\$ベース）

1 成長戦略：③ネットワーク事業の強化

■ セキュリティ事業を取り巻く環境変化

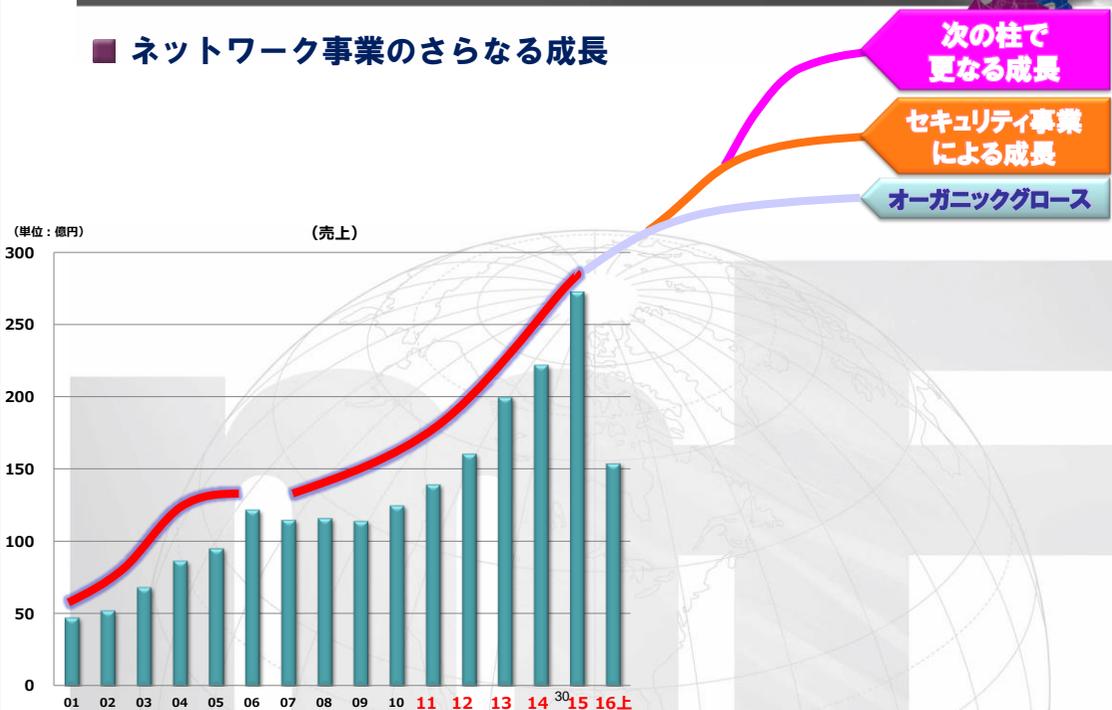


市場はますます成長

高度なセキュリティ対策が急務

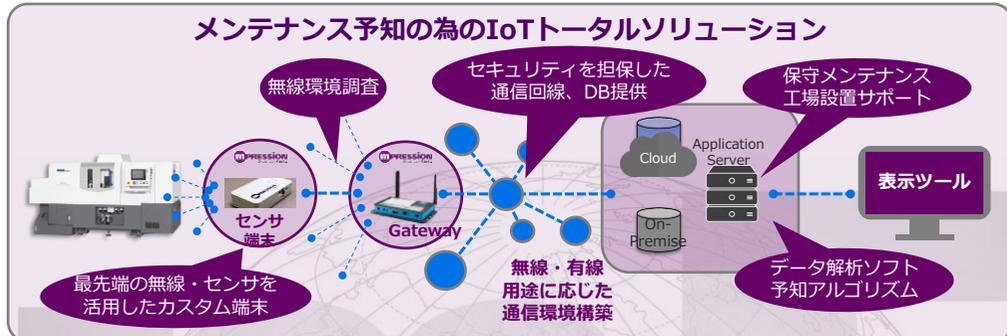
1 成長戦略：③ネットワーク事業の強化

■ ネットワーク事業のさらなる成長

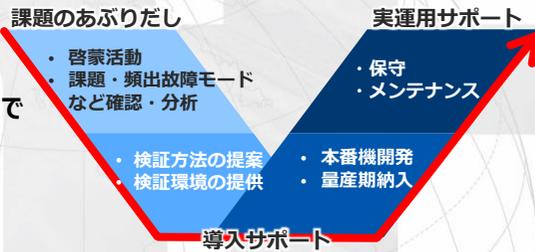


1 成長戦略：④成長加速の施策

■ マクニカ予知保全ソリューション



“課題のあぶりだし”から、“実運用サポート”まで
全ての段階をサポート



1 成長戦略：④成長加速の施策

■ 新規事業への布石

➔ Macnica Ventures始動

- ➔ 既存事業の成長と新規事業の創出のための投資事業

投資先継続検討中

➔ 未来事業創造室を新設

- ➔ 2016年4月に専用部署を設立

リソースを増強し継続活動中



半導体事業

ネットワーク事業

新規事業

2 数値目標

成長戦略 ①統合効果によるシェア拡大 ②グローバル戦略の強化 ③ネットワーク事業の強化 ④成長加速の施策

[2018年度]

| | |
|------|-----------|
| 売上高 | 5,000億円以上 |
| 当期利益 | 100億円以上 |
| ROE | 8%以上 |

(単位：億円)

売上高



(単位：億円)

当期利益

